

# 宇野港 英語学習の場に

現代アートで注目される直島、豊島（香川県）に向かうため、宇野港(玉野市)を訪れる外国人が増える中、同港周辺を英語学習の場と捉えた市教委の「たまのスケジュールガイドプログラム」が30日、本格的に始まった。市内の中高生が外国人に英語で語り掛け、玉野の魅力をPR。来訪者のさらなる増加が見込まれる2019年の瀬戸内国際芸術祭に向け、活動を重ねていく。（近藤哲也）

## 中高生 外国人に観光PR

同プログラムは、中高生が外国人に観光PRの場を創出する。参加者はその都度、宇野港周辺での案内を1、2カ月に1回程度募る。



宇野港のフェリー乗り場で外国人に声を掛ける高校生ら

「たまのスケジュールガイドプログラム」が30日、本格的に始まった。市内の中高生が外国人に英語で語り掛け、玉野の魅力をPR。来訪者のさらなる増加が見込まれる2019年の瀬戸内国際芸術祭に向け、活動を重ねていく。（近藤哲也）

生徒たちは、地元の観光ボランティアガイドグループ「つつじの会」のメンバーから「好印象を与えるように笑顔で接して」などとアドバイスも受け、手持ちのメモで言い回しを確認しながら声を掛けた。慣れてくると、外国人とグルメ情報などで盛り上がりつつある。

同プログラムは、中高生が外国人に観光PRの場を創出する。参加者はその都度、宇野港周辺での案内を1、2カ月に1回程度募る。能力や国際性、地元への愛着を育むのが狙い。瀬戸内国際芸術祭での案内役としての期待もかかる。外国人と会話したりする。市教委の募集に応じた中学1年〜高校2年の9人がJR宇野駅とフェリー乗り場に分かれ、外国人を見掛けると「ハロー」と声を掛け、目的地や出身国を質問。打ち解けたところで宇野港周辺のアート作品や店舗を紹介するパンフレットを見せ、市内の魅力を紹介した。

玉野高1年横道紗紀さん(15)は「オーストラリアの男性に（ご当地グルメの）たまの温玉めしを紹介した。声を掛けるのは勇気がいったけど、英語に少し自信がついた」と話した。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。